

小児科外来・病棟で役立つ 母乳育児支援

特集にあたって

病気の子どもと母親に寄り添う 母乳育児支援

昨年発表された平成27年度乳幼児栄養調査結果¹⁾では、3カ月児の約9割は母乳を与えられていました。小児科外来・病棟でも、母乳で育てている子どもを診療ならびに看護することは珍しいことではありません。つまり、小児科外来・病棟でも母乳育児中の母親とやりとりすることになります。わが子が病気にかかって病院やクリニックを受診したり、入院したりする子どもの母親は、わが子の病気について不安を抱えるとともに、母乳は与えられるのだろうか、という心配も生じてくることでしょう。対応する私たちの母乳育児に関する理解が不十分であれば、母親の不安を軽減することも困難となるかもしれません。

母乳育児支援というと、分娩施設で助産師が行うものとか、開業助産師が母乳育児相談として行うもの、というイメージをもっている人も少なくないでしょう。しかし、少し考えてみれば、母乳でわが子を育てることはごく普通のことであり、その子育ての過程でわが子が病気になったり、入院したりすることもあるわけです。また、わが子の病気以外に、小児科外来で母親に薬を処方された場合、授乳しながら服薬してもよいのかという質問をしばしば受け

ることがあります。このような母親の不安な気持ちに寄り添いながら、母親が安心して母乳を与えられるように適切に対応していくためには、母乳育児に関する知識が必要になります。

そうはいても、小児科外来・病棟では、疾病の治療と病気の子どもの看護だけでなく、院内感染対策や虐待事例の把握まで幅広い業務を要求されるようになっていきます。そのような状況で、母乳育児支援にまで手が回らない…そう考えるのも無理からぬことです。

そこで本特集では、効率的に必要な知識を得られるように、小児科外来・病棟で役に立つ母乳育児の知識を各部門のエキスパートに執筆いただきました。子どもの治療と看護から一歩進んで、病気の子どもをもつ母親に寄り添い、母乳育児支援を行う、そのきっかけづくりになれば幸いです。

1) 厚生労働省：平成27年度乳幼児栄養調査結果の概要。
<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000134208.html>

昭和大学江東豊洲病院小児内科教授
水野克己 Mizuno Katsumi